



研修参加者感想：学校職員・学生

Snapshots & Words 研修のひとコマ & 感想



UCLA 大学病院での救命ヘリコプターの着陸風景や数々の先端医療機器など、日本では絶対に見る事ができないものが見れて本当に貴重な研修になった。
(聖隷クリストファー大学 看護学生)



アメリカは医療が進んでいるというイメージが強かったが、現場を視察してみて予想以上の先進度に感動した。また、どの病院でも多忙にもかかわらず、現場スタッフが一つ一つ丁寧に笑顔で説明して下さりスタッフの暖かさを感じた。
(新潟医療福祉大学 引率教員)



テーピングやモビライゼーションの体験は自分の勉強のモチベーションを上げるきっかけになった。アメリカの理学療法はとても充実していて、日本との違いに驚いた。
(理学療法大学生 国際勉強会 学生メンバー)



シニア施設でのボランティア活動では入居者の方に「嬉し涙が出た」と言ってもらえる事ができ、自分も涙が出そうだった。慣れない英語で意思の疎通が大変だったが、楽しくて一生忘れない思い出になった。
(看護学生)

WHY America?

アメリカ医療研修のメリット



- アメリカの看護師は日本とは全く違い、高い判断力と多くの知識を現場で求められている事を現地看護学生との交流を通して学んだ。自分の知識の少なさや視野の狭さを痛感すると共に、良い刺激になった。
(新潟医療福祉大学 看護学生)
- アメリカの医療は驚くことばかりだった。患者中心のケア、環境づくりなどの面で日本の医療よりも進んでいるし、看護師が医師に近い役割をされていてすごいと思った。現場で話を聞いた看護師のほとんどが専門資格・認定を多く持ち、向上心が強く生き生きと働いていると感じた。
(石川県立看護大学 看護学生)
- 国立リハビリセンターでは現場で活用されているアルターGというNASAで開発された技術を使った先端リハビリ機器のデモンストレーションが見れたのがすごかった。その他にも日本にはない様々な機器が見れて、実際に体験できたのでおもしろかったし、とても勉強になった。
(理学療法大学生 国際勉強会;京都大学、神戸大学、畿央大学 学生メンバー)
- 社会福祉士がアメリカの医療・介護でこんなにも活躍している事に本当に驚いた。日本と違い、アメリカ社会では社会福祉士の認知度が高く、彼らが重要な役割を果たしている。実際に活躍している多くの社会福祉士と会って話を聞くことができたので、とても良い経験だった。自分も社会福祉という仕事の誇りを持ち、社会に積極的に働きかけていける社会福祉士になりたい。
(国際医療福祉大学 医療福祉学生)
- ダビンチロボット手術システムという最新医療機器の体験ができて非常に嬉しかった。オペ室の見学や人口心配を操作する技師との面談など興味深い内容が多く、勉強になった。
(神戸総合医療専門学校 臨床工学学生)

Nursing: 看護学部 研修参加者 感想

- 勤務して3年ほどの先輩看護師とディスカッションする機会があったが、年齢が近いのに意見が非常にしっかりしていて驚いた。経験から学んだ辛い時の対処法の話や、なぜ小児看護を選んだかという話はとても為になる部分が多かった。
(新潟医療福祉大学 学生)
- 今回の研修では、病院内の部門間でのチーム医療を大切にしている事と看護師の仕事が細分化されている事が特に印象に残った。素晴らしい看護師に多く出会えて励みになった。自分も常にハングリー精神で色々な事を吸収し、日本の医療・看護の良い部分も見つけていきたい。
(浜松医科大学 学生)
- 現場看護師との数多くのディスカッションを通して米国看護の専門性の高さ、看護師のプロとしての意識の高さを感じた。また、「協力」という言葉を何度も聞き、スタッフ間の仲の良さも感じて皆さんが患者を第一に考えて仕事をしている姿勢が伺えた。日本の看護師の意識や勤務環境もそのように変わっていくと良いと感じた。
(関西看護専門学校 教員)
- 現場視察でそれぞれの病棟のケア内容が分かりやすいよう予めトピックを選んでくれており、また学生にも分かりやすいミレニア・スタッフの通訳にプロフェッショナルを感じる。現地学生とも十分に交流できて良かった。
(新潟医療福祉大学 教員)

Rehabilitation: 理学療法・作業療法学部 研修参加者 感想

- 米国の理学療法士は大学院での教育課程が義務付けられているせいか、研修中に会った方たちは皆、高度の専門知識と高い技術を持っているように感じられ、自分も負けまいとモチベーションが上がった。また実際の患者セッションを見学しながら質疑応答ができたので、治療の際のテクニク的な部分が知れて興味深かった。
(理学療法大学生 国際勉強会 学生)
- 現地の理学療法士や作業療法士に対して日本の理学療法についてのプレゼンとディスカッションを行った際に、沢山質問してくれて、自分達のつたない英語でも興味を持って聞いてもらったのがとても嬉しかったし、現在の米国の理学療法士の社会的認知度や地位が高いのは、過去に多くの理学療法士が様々な働きかけをしてきた結果である事が分かった。これからの日本の理学療法の地位の向上に自分たちが何をすべきか考えるきっかけになった。
(理学療法大学生 国際勉強会 学生)
- いくつかの病院で現地の作業療法士からゆっくり話を聞いたので良かった。会った療法士の一人が患者を一番に考えてセラピーに当たる姿勢についての思い入れを聞き感動したし、自分もその姿勢を忘れないようにしたいと思った。
(国際医療福祉大学 作業療法学生)
- 視察先で対応してくれた現場の関係者が非常に好意的で学生の学びを心から助けて頂いている事に深く感謝する。非常に刺激的で、生徒の学びの糧となった。また、ボランティアでの現地シニアとの異文化交流も貴重な経験になった。
(東京衛生学園専門学校 理学療法 教員)

Social Welfare: 介護福祉研修参加者 感想

- 米国の療養型施設、介護施設、老人ホーム等の現場でゆっくり時間を過ごし、実際にボランティア活動を通して利用者ともふれあう機会があったので、いろいろな介護での工夫を実際に見たり聞いたりして総合的に学ぶ事ができた。日本では利用者の要望を聞いてのんびり過ごして頂く事を良しとするが、アメリカではアクティビティ・プログラムが充実させる事によって肉体的にも知的にもアクティブに過ごす事が大切だと考えられている事が印象に残った。
(麻生医療福祉観光専門学校 学生)
- それぞれの利用者に対するアクティビティを用意したり、食事の選択肢が豊富であるなど個別性が高く、また利用者のプライバシーの確保が日本に比べて優れていると思った。また、終末期ケアの患者や家族に対するサポート体制が整っていたのがすごいと思った。とても充実した研修で良かった。
(麻生医療福祉観光専門学校 学生)

Copyright © Millennia Education 2013 本紙の無断複写・改造を禁止します。

《お問い合わせ》

ミレニア・エデュケーション

Millennia Holdings, Inc.

E-mail: info@iryu-kenshu.com

Web: www.iryu-kenshu.com

Tel: 1(米国 国番号)-213-252-1230